

国立病院機構盛岡病院化学物質過敏症外来便り 2008年12月号 (Vol. 6 No. 4)

ク リ ー ン エ ア

第58回日本アレルギー学会秋季学術大会報告

第58回日本アレルギー学会秋季学術大会が東京国際フォーラムで平成20年11月27日から29日の3日間の日程で開催されました。(会長：帝京大学医学部内科 太田健教授)今回はミニシンポジウム「薬物アレルギー・化学物質過敏症」で発表してきました。演題は「学物質過敏症の急性症状に対する酸素吸入療法の有効性の検討」でした。以下に内容の紹介を致します。

化学物質過敏症(MCS)は化学物質曝露をきっかけに多臓器の症状が出現してきますが、時に急性症状を呈します。急性症状としては、頭痛、咳、息苦しさ、不整脈、皮疹、四肢の筋肉痛や脱力、高度の全身倦怠感など非常に多彩で、重篤な場合は、意識消失を起こして救急搬送されることもあります。しかし、救急車内の薬品臭やタバコ臭に反応してさらに症状が増悪することもあります。MCSの有効な治療法はまだ確立されているとはいえませんが、経験的に急性症状に対して、グルタチオンの点滴や酸素吸入が有効といわれていて、MCSの専門外来の臨床現場では実施されています。今回、当院の化学物質過敏症外来通院中の患者さんに対して、医師から医療用酸素ボンベの指示書を提出し、急性症状発現時に酸素吸入(2~5L/分、10~30分)を家で実施していただき、その効果を検討しました。

酸素吸入方法ですが、通常の鼻カニューラで臭いが気にならない場合はこれで行い、臭いが気になって気分不良などを起こす場合はケナフのマスクにオールシリコンのチューブを接続しオプションで使用していただいています。酸素療法の実際(図1)ですが、主治医から酸素療法の指示書が出されると酸素業者に直ちに連絡が行きます。指示書に従って酸素業者が患者さん宅へ連絡を取って酸素ボンベを届けます。酸素ボンベはまず2本設置し、1本が空になったら患者さんから酸素業者に連絡を取って新しい酸素ボンベを届けてもらうというシステムです。支払は病院を受診した際に、実費を支払うことになっています。MCSでの在宅酸素療法は今のところ保険適応になっていませんが、酸素療法は医師の指示がなければできないのでこのような煩雑なシステムを取らざるを得ません。現在、家に酸素ボベを設置している方は17名(男性5名、女性12名)で、岩手県在住の方が8名で他は秋田県3名、青森県4名、宮城県1名、福島県1名となっています。酸素療法の効果ですが、著効と有効を合計すると82%となりました(図2)。項目別の改善度は高い方から頭痛88%、気分不良64%、倦怠感59%、めまい35%、咳29%で、意識消失、痙攣などの重篤な症状が全く見られなくなりました(図3)。

MCSにおいて、SPECT(単光子放射線コンピュータ断層撮影)や機能的MRIにて微小循環系の血管炎や血管周囲の局所浮腫による血流量の低下を認めたり、近赤外線酸素モニター(NIRO)にて化学物質負荷により脳血流の有意な低下を認めています。またMCS患者さんの静脈血酸素分圧(PVO2)が比較的高値を示すことも知られていて、その原因として生理的動静脈シャントと同様の変化が生じて、各組織の酸素利用率が低下しているのではないかと考えられていますが、今のところ明確なメカニズムは不明です。以前から述べてきたように、MCSの種々の症状に対して酸素吸入が有効であることは経験的に観察されていて、症状が改善するとPVO2が改善(低下)してくる例が認められます。

一方、最近片頭痛発作に高濃度の酸素吸入が有効であるという報告が欧米を中心に散見されますが、MCSの急性症状に対しても酸素吸入療法が有効であることは、発症メカニズムとして片頭痛と何らかの共通点が見出せるかもしれません。片頭痛の中に臭いをきっかけに頭痛が起こる例があつて、この中にはMCS患者さんが含まれている可能性も否定できません。文献的にみると片頭痛発作に対する酸素吸入法として、大型酸素ボンベからフェイスマスクを通じて7~8L/分、10~15分吸入が標準的とされています。改善するメカニズムは十分解明されていないのが現状ですが、脳血流の改善効果が考えられています。

今回、MCS患者さんの急性症状に対して、家に酸素ボンベを設置して酸素吸入療法を実施していただき80%に有効でした。家での酸素吸入療法を導入することにより、症状改善までの時間が短縮し、経過をみていると次第に化学物質曝露による症状が軽くなって、救急受診の頻度が減って、日常生活障害度が改善しました。特に意識消失

や重篤な症状を呈するものには非常に有効でした。MCS患者さんは日常生活の中で、種々の化学物質の曝露によって症状が起こるため日常生活に著しい制限を余儀なくされる症例がみられ、しかも有効な薬物療法が確立していない現状においては、家での酸素吸入療法は、症状発現時に直ちに対応でき、安全性も高く、速やかな症状の改善をもたらすものとして、今後有効な治療法の一つに位置付けられるものと期待されます。MCSに対する在宅酸素療法は現在のところ保険適応ではありませんが、早急な対応が望まれます。



